

# ユーラシアにおける境界と環境・社会 —学際的対話による包括的な「境界」知の獲得

ワークショップ開催予定日： 2015年2月7日（土） 奈良女子大学

## 趣旨：

冷戦の文脈の中で顕在化し、今日まで影響をおよぼし続けている、ユーラシア各地の境界・環境・社会の問題について、文理の壁を超えて学際的な議論を行うことで、ユーラシアというスケールでの共通性と各フィールドの位相的關係について包括的な知の獲得を目指す。

## 本WSでの「境界」の捉え方：

- ・「境界 border」≠「境界線 boundary」
- ・「場所(place)」のもつ生態的・社会的・政治的コンテキストに基づいて構築され、絶えず変化のプロセスにある「境域 borderland」（つまり、「線」ではなく「面」）として「境界」を捉える
- ・政治的境界(国境など)と生態学的・自然地理学的境界(河川流域、海域など)の齟齬についても考慮
- ・冷戦崩壊前後の社会・政治的コンテキストの中での、境域における環境と社会をめぐる現象(境域事象・越境現象)の変化と、「境界」そのものの変化(「境界化 bordering」・「脱境界化 de-bordering」)のプロセスについて、「ユーラシア」という単位で考える

## 参加者および報告テーマ：

- 地田 徹朗(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター;企画代表者):ソ連崩壊前後のアラル海流域河川管理とアラル海災害
- 渡邊 三津子(奈良女子大学;コアメンバー):中国-カザフスタ国境地域における青果物の流通と地域農業の変容
- 花松 泰倫(九州大学;コアメンバー):アムール・オホーツク陸海統合域における越境環境ガバナンスと新しい境域圏の形成の試み、対馬釜山海峡域における国境観光の発展と境域社会の変容
- 浅田 晴久(奈良女子大学):インド北東部における地域固有の生態環境を基盤とした民族間の境域形成
- 星川 圭介(富山県立大学):国境をまたぐ生業・農業技術分布・自然災害に関する研究(タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス)
- 中村 知子(茨城キリスト教大学):辺境から中心へ社会変化に伴う国境域の対応とその変化(中国-カザフスタン)
- 大西 健夫(岐阜大学):中央ユーラシアを事例とする自然界における水・物質循環の単位としての「流域」と人為境界である「国境」の關係の検討、人間の交易を通して流域(あるいは国境)を越境して、行き来する物質・エネルギーの流れの様態をどう捉えるかということに関する理論的研究
- 白村 直也(中部学院大学):チェルノブイリ原子力発電所事故後の民間医療支援と境域社会
- 峯田 史郎(早稲田大学アジア研究機構):中国-ラオス・ミャンマー境界における越境地域ガバナンス、および自然環境変化・親密圏拡大を伴う社会変容に対する生活者による領域管理(アドバイザー)柳澤 雅之(京都大学地域研究統合情報統合センター)